

説教 主にあって喜びなさい (フィリピの信徒への手紙 4章 4節)

小澤 淳一 初等部宗教主任

「喜びなさい」と言われているが…

フィリピの信徒への手紙を書いたパウロは、この手紙の中で何度も「喜びなさい」と言います。

私たちの毎日の生活を振り返って、そんなには喜べないように思います。自分の計画通りにうまく物事が運んでいるときは喜ぶことができるでしょう。例えば、受験して思い通りの学校に合格する、就活で思い通りの仕事に就く、仕事先で大きな業績をあげる、思い通りの家庭を築く、たくさんのお金を得る…数え上げていくときりがありません。

これらすべてを満足させるようなことは、なかなか難しいでしょう。また、すべてを満たしたとしても、さらに欲求が出てきて満足できないのが、私たちの心かもしれません。

「喜びなさい」と勧めるパウロの人生は…

パウロは、小アジア地方のキリキア州タルソスという町に生まれ、律法学者ガマリエルの弟子となり、主イエスを信じるクリスチャンを弾圧していました。しかし、復活の主イエスに出会い、回心し、伝道者となりました。伝道の旅を続け、数多くの教会を建てました。新約聖書のいくつかの手紙は、パウロが建てた教会に宛てて書かれたものです。この旅行の間

に宗教上の理由から、何度も投獄されることがありました。このフィリピの信徒への手紙は、西暦61年頃、おそらくローマで拘束されていた時に書かれたと考えられます。

この手紙の中でパウロは、「私は、自分の置かれた境遇に満足することを学びました。貧しく暮らすすべも、豊かに暮らすすべも知っています。満腹することにも、飢えることにも、有り余ることにも、乏しいことにも、ありとあらゆる境遇に対処する秘訣を心得ています」(フィリピ4:11~12)と書いています。囚われの身でありながら、自由の身であるかのように満足しています。それだけではなく、貧しさに対しても富に対しても区別なく「ありとあらゆる境遇に対処する秘訣を心得ている」と言います。

その秘訣とは「私を強めてくださる方のお陰で、私にはすべてが可能です」(13)という聖句にヒントがあります。「私を強めてくださる方」、つまり、主イエスキリストによって可能になるということです。それは、どういうことでしょうか。

「主にあって」

どのような境遇にあっても、いつも喜んでいることができるポイントは、「主にあって」ということです。「主」つまり主イエスが共にいてくださるから、どんなときでも喜ぶことができるのです。

新約聖書の最初にマタイによる福音書に記されているイエスキリストの誕生の記事の中に「インマヌエル」という言葉があります。その意味は「神は私たちと共におられる」ということです。私たちに常に変わらない喜びをもたらすものは、いつも主イエスが共にいてくださること、私たちの苦悩や喜びを主イエスが共にしてくださること、どんなときにもそばにいてくださるという確信です。だから、どんなことがあっても大丈夫と信じていることができるのです。

私たちは、問題のない社会、問題のない職場、問題のない家庭や人生を見つけることはできません。今、大切なことは、何によって、どう問題を解決しようとしているかということです。

これからの人生の中でも、苦しみや悲しみ、何かの問題を抱えることもあるでしょう。その時にこそ、青山学院でキリスト教を学んだことを思い出してください。礼拝で聴いた聖書の言葉を思い起こしてください。主イエスが共にいてくださること。いつも支えてくださることを思い出してください。苦しいときにインマヌエルの一言を思い出してください。

「インマヌエル」は、心に平安を与える言葉です。主イエスが共にいてくださるから、どんな境遇でも神様に守られて、安心して歩むことができるのです。主の恵みが豊かにありますように祈ります。

